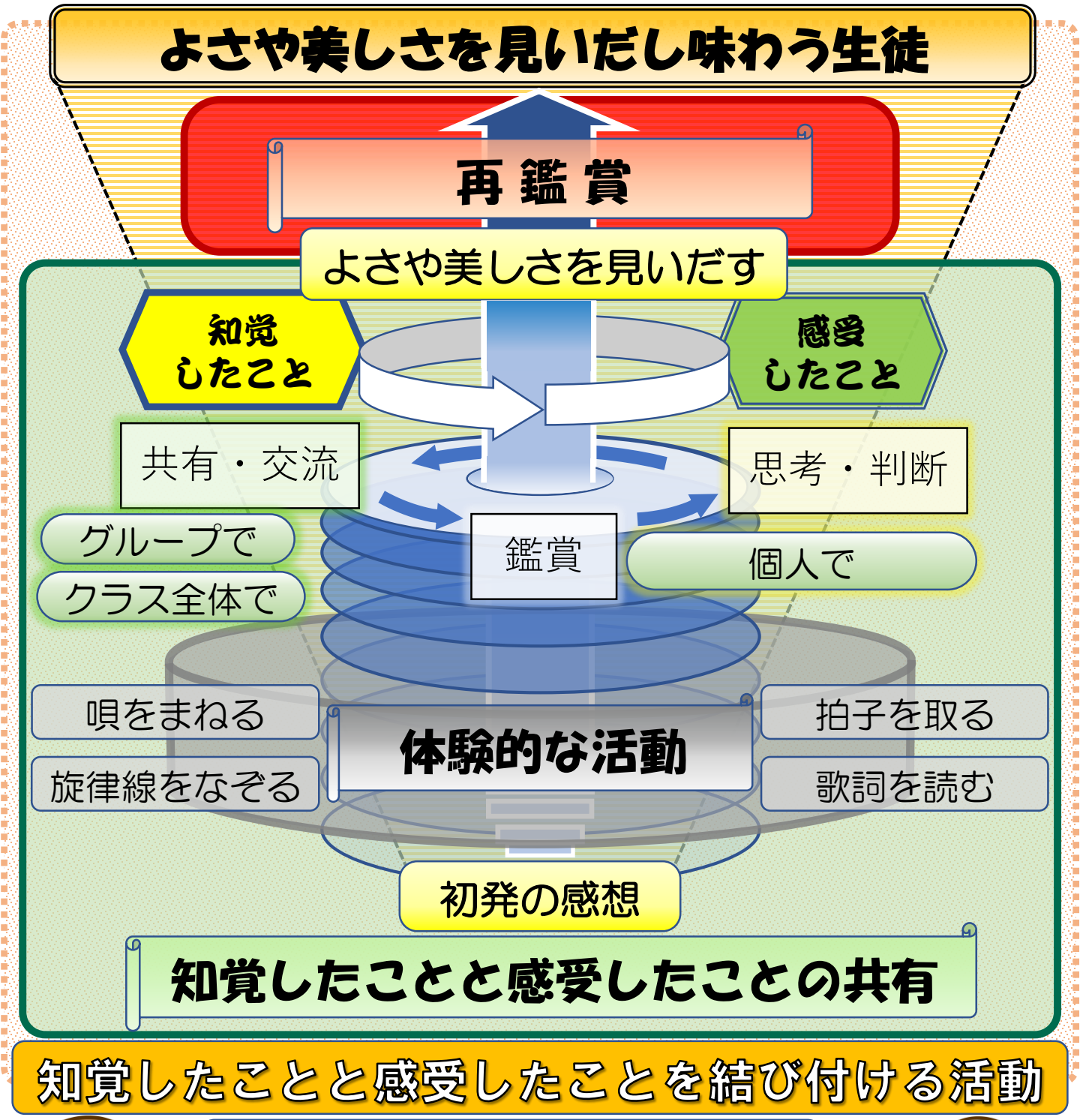
日本の伝統音楽のよさや美しさを見いだし味わうことができる生徒の育成

― 鑑賞の授業における、知覚したことと感受したことを結び付ける活動の工夫を通して ―

長期研修員　小池　寿久



知覚したことと感受したことを結び付ける活動

日本の伝統音楽のよさや美しさってなんだろう？

どうすれば生徒自身がよさや美しさを見いだせるようになるのだろう？

知覚したことと感受したことを結び付ける活動

知覚したことと感受したことの共有

共有
交流

初発の感想

思考
判断

知覚 音色
笛や鼓の音色
三味線の音色

感受 雰囲気
和風な感じ

鑑賞

歌詞を読む

拍子を取る

体験的な活動

感受 特質
音に合わせて
演技する

知覚 速度
変化している

よさや美しさを見いだす

見いだしたよさや美しさ

音に合わせて演技すること。場面に合わせて、速くなったり遅くなったりして、それに合わせて三味線などが入っていた。

再鑑賞

再鑑賞後のよさや美しさ

場面によってテンポが違った。始めのあやまっている時は暗～いのでうかい、踊っている時は明るく速いので場面に合っているな。と思いました。1人1人が出している音がこんなにも合わさるとはすごいと思った。

授業の振り返り

日本独自の世界観が表されていて、三味線や笛、たいこや人の声により、「歌舞伎音楽」ができるんだなと思いました。授業を通して「歌舞伎を観に行ってみたいな。」と初めて思いました。

よさや美しさを見いだし味わう生徒

成果と課題	繰り返し日本の伝統音楽の鑑賞に取り組むことで、生徒は知覚したことと感受したことを自ら結び付けて考えられるようになり、自分なりに日本の伝統音楽のよさや美しさを見いだし、味わうことができた。
	体験的な活動や話合いによる共有には時間が必要になるため、活動の内容や共有の方法を工夫し、鑑賞に繰り返し取り組むための時間を十分に確保する必要がある。
提言	生徒が音楽に対する感性を働かせ、主体的に鑑賞や共有に繰り返し取り組み、自分なりに日本の伝統音楽のよさや美しさを見いだし、味わえる授業を実践しましょう。